



トルコにおけるシリア難民受入



2019年7月1日
国際協力機構（JICA）
トルコ事務所長
安井 毅裕

シリア難民セミナー

シリア情勢の経緯

2011年 アラブの春による民主化運動
 アサド政権による弾圧(民主化運動の終焉)
 内戦の開始(反政府勢力とアサド政権)

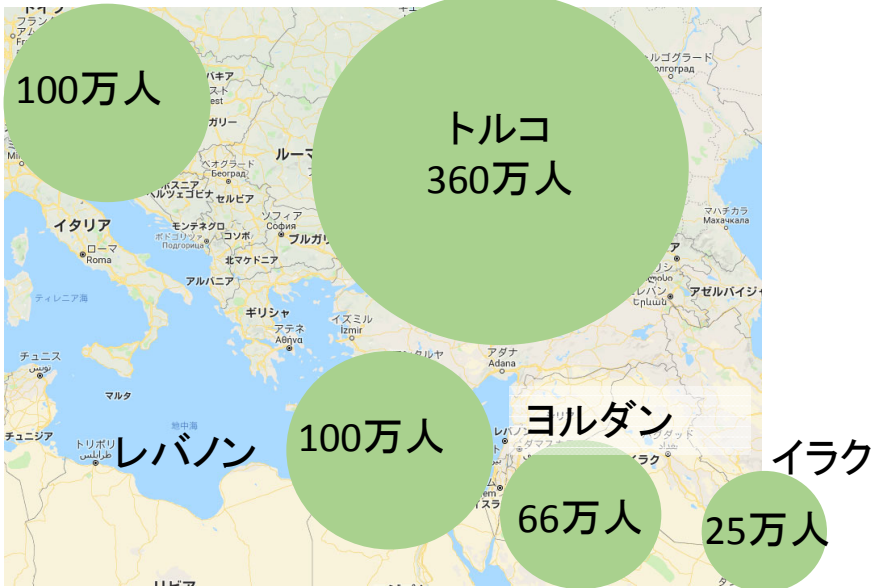


内戦激化とともに、多数の人々が、場所を追われる。
 現在、その数は、約1,300万人に達する。
 = 国民の半数以上に相当

過去に例を見ない、「今世紀最大の人道危機」

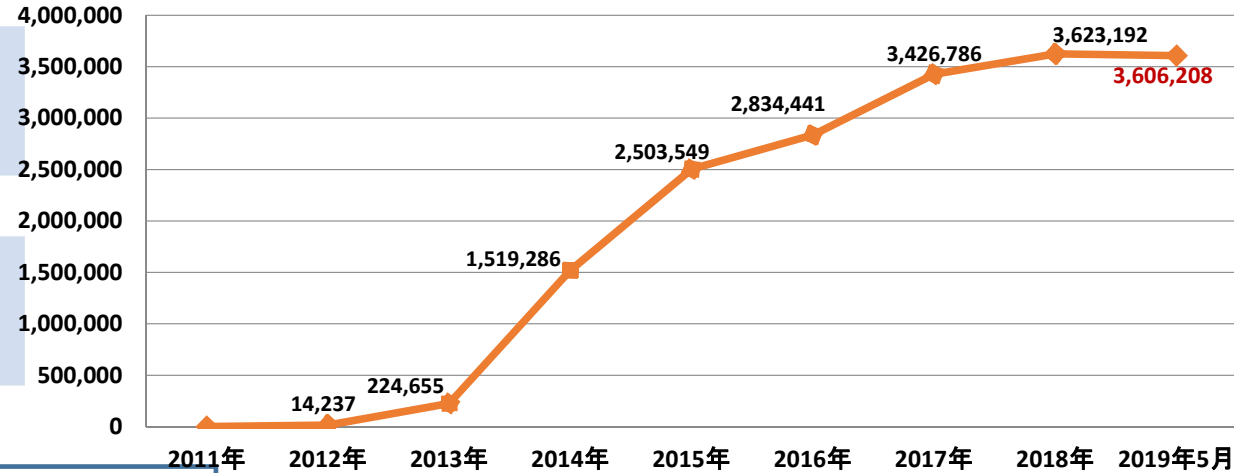
シリア国内に650万人、他は主に周辺各国へ

ヨーロッパ



トルコ国内のシリア難民数の推移

(2018年10月24日時点 内務省移民管理局データを基に作成)



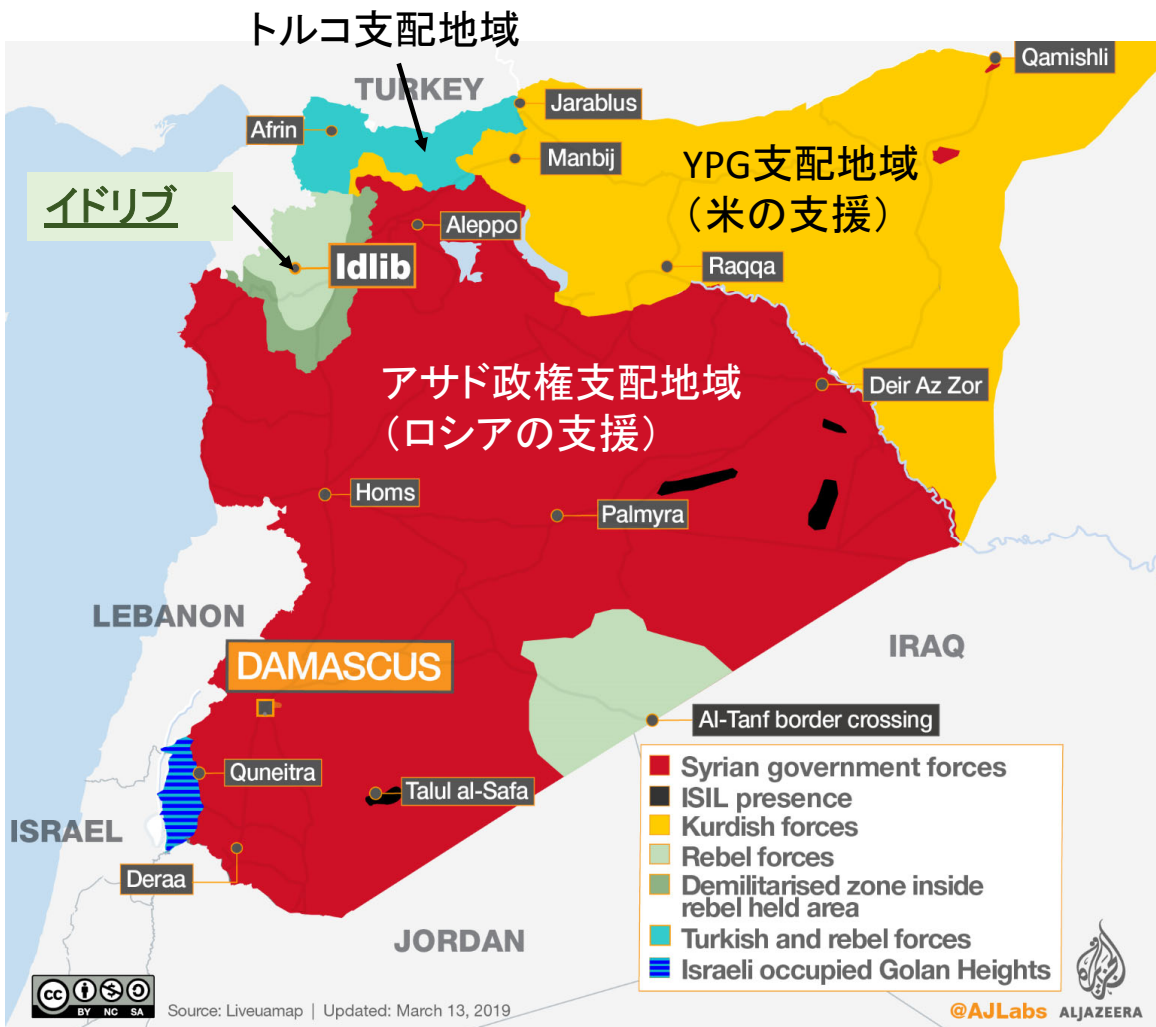
シリア内戦が収束に向かう中、難民の増加は抑えられつつある。

既に発生している多数の難民を巡る状況は、今後の改善が必要。
 すなわち…、

国際社会が協力して取り組むべき重要課題

- 戻るべきシリア国内の治安・社会の復元への支援
 それとともに重要な課題が、
- 難民受け入れ国が体力を持てるための支援
- 難民の自立への支援

ちなみに・・・(シリア内戦は収まりつつあるとは言ったが・・・)



反武装勢力が留まる最後の地域、イドリブを巡る動向。

アサド政権
イドリブに総攻撃を仕掛けて反政府勢力をせん滅したい。

トルコ
総攻撃は、新たな多数の難民を生む。非武装地域を設けて混乱を生まない形で対処したい。



トルコ・ロシアとの合意(ソチ合意)

アサド政権をバックアップするロシアとの間で、まずは、非武装地域設定に向け合意。

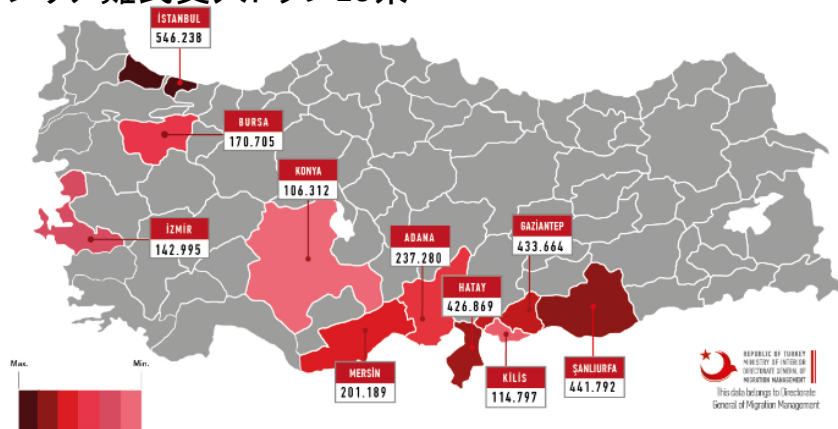
- アサド政権は、イドリブへの攻撃をアドホックに継続。最近、攻撃を激化。
- イドリブには、200万人の市民が存在し、攻撃の激化で新たな多数の難民が発生する、新たな悲劇を生む懸念あり。

トルコでの難民受入れの状況(私の目から見た様子)

いくつかの特徴(5点ほど)

大多数がキャンプ外	<ul style="list-style-type: none"> • キャンプは一部、95%がキャンプ外。トルコ社会の中で生活。 • シリア人はトルコ全土に広がって生活。最多はイスタンブール。 • 国境付近の地域は、短期間に20~80%も人口が増加。シリア人だけではなく、もとの住民への社会サービス(上下水・ゴミ処理などを含む)提供の維持に苦労・努力。
良好なキャンプ環境	<ul style="list-style-type: none"> • キャンプの状況は非常に良い。清潔、教育施設も準備され、キャンプ外に仕事に出ることも可能。中には子供が大学に進学するとの話も聞かれた。
トルコ・シリア人の共生	<ul style="list-style-type: none"> • キャンプ外のシリア人は、概ねトルコ人と問題を起こさず、同じ社会の中で生活。 • トルコ人は、シリア人を兄弟として迎え入れ。(オスマン時代には国境がなかった場所、シリア内戦前から双方の往来は日常的。)

シリア難民受入トップ10県



キャンプ内の様子

多様な状況

- もともと医者やビジネスマンなどのシリア人は、比較的裕福な生活。街には、シリア難民経営のレストランなども時折。そこはシリア人の集いの場所ともなっている。
- 他方、貧困下のシリア難民も多数いる。(当たっていないかもしれないが)感覚的に2~3割程度。トルコ政府は、難民向けに様々な支援メニューを準備している。しかし、情報がうまく伝わらないなど様々な理由からアクセスできていない。

難民生活の長期化

- シリア難民のトルコでの生活が長期にわたるに従い、生活の基本がトルコとなりつつある。例えば、子供がトルコで育ち、教育を受け、トルコで就職するようになるなど。トルコ政府は、トルコ社会で受け入れられるような支援をしつつ、シリア北部で社会と生活基盤を復元する取り組みをしており、そこへの帰還を促している。



ガジアンテップ
市内のカフェ・
レストランの様子



支援を必要とするシリア人
の家屋の様子



外見に比べ、中は小ざれ
いにまとめられている。
家具などは、不要となった
ものをトルコ人から譲り受
けた。

トルコにおける日本の支援・活動

ここから得られる示唆として、以下の支援をしていくことが、私たち日本にとってできることではないか。

- 十分な社会サービスの提供をトルコ人・シリア人双方に対して行われるよう支援していくこと
- 支援メニューがシリア人のニーズに沿った形で届けられるよう支援していくこと

「十分な社会サービス提供」への協力

上下水・廃棄物処理施設の増設に対する支援

▶ 住民への社会サービス提供を維持しつつ、シリア難民を受け入れるキャパシティを増強。

- 対象：南東部10県（難民受入に苦勞している各県）
- USD 400 million
- 2015年5月に融資契約締結。



「支援メニューが、シリア人のニーズに合った形でしっかりと届けられる」ための協力
社会サービスセンター(SSC)機能強化(家族省)

- ✓SSCソーシャルワーカーの能力強化
 - ✓トルコ・シリア両コミュニティ対象の社会的結束(Social Cohesion)活動
 - ✓社会福祉サービスへのアクセスが難しいケースもあり(言葉や母子家庭など)、効果的な行政サービス提供を図る。
- @イスタンブール、メルシン



UNHCRとの連携により、本プロジェクトを継続予定。
(2019年度、日本政府予算を活用、UNHCRがプロジェクトを継続予定。)

国連機関を通じた支援（一部の事例）

日本政府は、国連機関のプロジェクトを支援。

UN-Woman「SADA」センター

難民女性・子どもへの教育・生計向上訓練、社会統合（Social Cohesion）への支援を行うセンター。

2017年11月に開所式が行われた。



Child Friendly Space

UNICEFによる子どもの心理ケア等を行う施設として、トルコの各地22箇所に設置。

日本政府は170万ドルを拠出。



日本のNGOの方々も、様々な活動を展開。

最後に・・・

日本では、難民問題は遠い国の遠い話に聞こえます。しかし、国際社会が協力して取り組むべき課題ではないでしょうか。日本としても、できることに取り組んでいくことの重要性を発信していきたいと考えています。そして、日本政府、JICA、日本のNGOなどが様々な活動を行っています。その取り組みに理解を頂きつつ、一層のサポートを得られるようにしたい。本日のセミナーがその一助になればと願っています。



ご清聴
ありがとうございました
!!



2019年は、トルコ向け政府開発援助（ODA）
の60周年にあたります。

トルコで記念イベントを予定しています。

